

1. 計画の概要

(1) 計画の目的・背景

限られた財源の中で社会変化に対応し、より良い行政サービスが提供できるよう、将来を見据えた長期的な視点で市民センター等のあり方について示す「(仮称) 町田市市民センター等の未来ビジョン」を策定する。

(2) 位置づけ

町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」や「町田市公共施設等総合管理計画(基本計画)」に基づき策定する。

(3) 計画期間

2021 年度～2039 年度

2. 現状と課題

(1) 財政のひっ迫、公共施設の老朽化、維持管理費の増大

財政状況が厳しさを増す中、公共施設の多くが老朽化しており維持管理経費の増大が見込まれる。維持管理経費の財政確保が困難な中、必要な公共サービスを維持または向上させるため、施設総量を圧縮しつつ、施設重視から機能重視への転換による新たな価値を創出する。

(2) 施設機能毎の考え方としての施設再編

町田市公共施設再編計画の基本的な考え方に基づき、「建物」とそこで提供される「サービス・機能」を切り離し、施設機能毎(「A 庁舎・窓口機能等」「B 集会施設」)のより良いかたちを実現するための方向性を整理する。

(3) 行政窓口のデジタル化への対応

マイナンバー制度の進展等の ICT 化により、窓口へ来所することなく、より簡単に身近な場所で行政手続きが可能となるなど、行政サービスが大きく変化することが想定される。社会変化に対応した行政窓口の見直しが必要となる。

(4) 利便性の向上

より良い行政サービスの提供のため、市民にとっての利便性向上の視点から検討を行う必要がある。(例：学校等の活用による利便性向上の可能性)

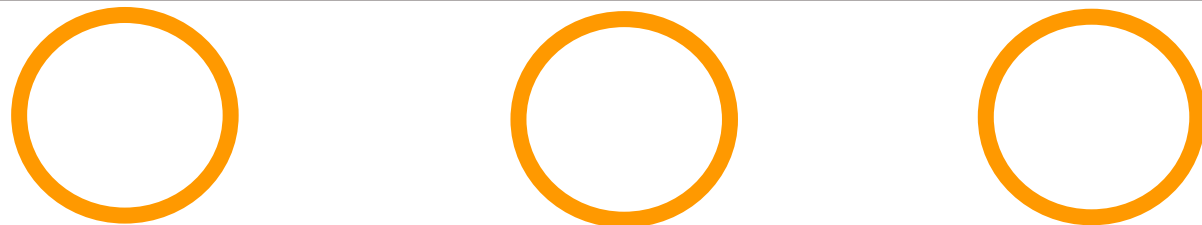
(5) 市民センター等の将来的な役割の変化

環境変化に伴う市民センター等の将来的な役割の変化を見据えた検討を行う必要がある。(事例「熊本市(証明書発行に特化した窓口を整理し、まちづくり支援として機能強化を図る)等」)

前回の検討委員会で議論いただいた方向性【キーワード】

公共施設の量の削減の必要性、機能、場所、複合化、多機能化、地域特性、コンビニ交付、民間活用、広域連携、避難施設、コロナによる環境変化、利用者目線、利便性、集まれる場、コミュニティ、地域活動、若者、アクセス、ニーズ

現状と課題を踏まえた方向性のグループ化



3. あるべき姿

あるべき姿を描く

【行政窓口編】

Three empty boxes for describing the ideal state for administrative windows, each preceded by an orange square icon.

【集会施設編】

Three empty boxes for describing the ideal state for assembly facilities, each preceded by an orange square icon.

4. あるべき姿を実現するための手法

【行政窓口編】

Three empty boxes for describing implementation methods for administrative windows, each preceded by an orange square icon.

【集会施設編】

Three empty boxes for describing implementation methods for assembly facilities, each preceded by an orange square icon.